

令和7年度新宿御苑日本館御殿工事（I）設計図

令和7年 12月

環境省新宿御苑管理事務所

令和7年度新宿御苑日本館御殿工事（Ⅰ）設計図

図 面 目 録

「表紙」「図面目録」共全 100 枚

図面番号			図 面 名 称			縮尺			図面番号			図 面 名 称			縮尺		
—	—	表紙	—	51	A－51	建具表(10)	WRGL:縦格子付き硝子入り欄間	1/30	100	S－15	新御殿 土台伏図	1/60	150	M－07	空調・換気設備ダクト断面図(1-1)	1/30	
—	—	図面目録	—	52	A－52	建具表(11)	WRG:硝子入り欄間	1/30	101	S－16	新御殿 1階床伏図	1/60	151	M－08	空調・換気設備ダクト断面図(1-2)	1/30	
01	A－01	木造特記仕様書(その1-1)	—	53	A－53	建具表(12)	WRI、WRGI:糸引き欄間 WRT:竹節、P:障子欄間	1/30	102	S－17	新御殿 1階柱伏図	1/60	152	M－09	空調・換気設備ダクト断面図(3)	1/30	
02	A－02	木造特記仕様書(その1-2)	—	54	A－54	壁詳細図		1/5	103	S－18	新御殿 小屋伏図	1/60	153	M－10	空調・換気設備ダクト断面図(4)	1/30	
03	A－03	木造特記仕様書(その1-3)	—	55	A－55	部分詳細図キープラン		1/70	104	S－19	新御殿 各部伏図	1/60	154	M－11	空調・換気設備ダクト断面図(5)	1/30	
04	A－04	木造特記仕様書(その1-4)	—	56	A－56	部分詳細図(1)	家具、木造作	図示	105	S－20	新御殿 母屋伏図	1/60	155	M－12	空調・換気設備ダクト断面図(6)	1/30	
05	A－05	木造特記仕様書(その1-5)	—	57	A－57	部分詳細図(2)	木造作(戸袋)	図示	106	S－21	新御殿 垂木伏図	1/60	156	M－13	空調設備 配管系統図	—	
06	A－06	木造特記仕様書(その1-6)	—	58	A－58	部分詳細図(3)	木造作、金物、石	図示	107	S－22	新御殿 化粧垂木伏図	1/60	157	M－14	空調設備 配管平面図	1/60	
07	A－07	木造特記仕様書(その1-7)	—	59	A－59	部分詳細図(4)	床、床脇	図示	108	S－23	新御殿 柱頭柱脚金物伏図1	1/60	158	M－15	空調・換気設備 機器支持金物配置図	1/75	
08	A－08	別表(1)	—	60	A－60	部分詳細図(5)	エントランス自動ドア、照明ダクト	図示	109	S－24	新御殿 柱頭柱脚金物伏図2	1/60	159	M－16	空調設備 配線平面図	1/60	
09	A－09	別表(2)	—	61	A－61	部分詳細図(6)	廊下2自動ドア、防護柵	図示	110	S－25	新御殿 柱頭柱脚金物伏図3	1/60	160	M－17	給排水衛生設備 平面図	1/60	
10	A－10	工事区分表	—	62	A－62	部分詳細図(7)	御車寄、樋、中央エントランス	図示	111	S－26	新御殿 軸組図1	1/100	161	M－18	給排水衛生設備 トイレ詳細図	1/25	
11	A－11	案内図	—						112	S－27	新御殿 軸組図2	1/100	162	M－19	屋外配管図	1/150	
12	A－12	現況図	1/200	63	L－01	現況平面図		1/150	113	S－28	新御殿 軸組図3	1/100	163	M－20	屋外配管縦断面図	1/25 1/150	
13	A－13	配置図	1/200	64	L－02	外構撤去平面図(現況・計画重ね図)		1/150	114	S－29	新御殿 御車寄せ詳細図	図示	164	M－21	既設配管撤去図	1/150	
14	A－14	求積図(1) 建築面積	1/100	65	L－03	園路広場施設配置平面図		1/150	115	S－30	新御殿 断面リスト	1/5					
15	A－15	求積図(2) 建面積・延べ面積	1/100	66	L－04	雨水排水平面図-1(全体)		1/150	116	S－31	新御殿 基礎断面リスト	1/15	参考	K－01	仮設備等計画図(参考図)	1/160	
16	A－16	仕上表	—	67	L－05	雨水排水平面図-2(流域A)		1/67	117	S－32	新御殿 垂木詳細図	1/10					
17	A－17	平面図	1/100	68	L－06	雨水排水平面図-3(流域B)		1/67	118	S－33	新御殿 柱脚・束石詳細図	1/5					
18	A－18	屋根伏図	1/100	69	L－07	雨水排水平面図-4(流域C)		1/67									
19	A－19	立面図(1) 北側、南側	1/60	70	L－08	植栽計画平面図		1/150	119	E－01	特記仕様書	—					
20	A－20	立面図(2) 東側、西側	1/60	71	L－09	詳細図-1 舗装・側溝・縁石		1/10	120	E－02	電気設備凡例表	—					
21	A－21	断面図(1) 断面1～3	1/60	72	L－10	詳細図-2 舗装(石・砂利・脱色アスファルト)		1/150	121	E－03	電灯(照明)設備 参考機器姿図(1)	—					
22	A－22	断面図(2) 断面4～8	1/60	73	L－11	詳細図-3 舗装止め・野面石積・ベンチ		1/10	122	E－04	電灯(照明)設備 参考機器姿図(2)	—					
23	A－23	天井伏図(1)	1/50	74	L－12	詳細図-4 竜安寺垣		1/5	123	E－05	電灯動力設備幹線系統図	—					
24	A－24	天井伏図(2)、天井詳細図	1/50	75	L－13	詳細図-5 浸透トレンチ・L型側溝・雨水樹		1/10	124	E－06	電灯分電盤結線図(1)	—					
25	A－25	平面詳細図(1)	1/30	76	L－14	詳細図-6 横断溝		1/10	125	E－07	電灯分電盤結線図(2)	—					
26	A－26	平面詳細図(2)	1/30	77	L－15	詳細図-7 ワイヤー支柱	図示		126	E－08	動力制御盤結線図	—					
27	A－27	平面詳細図(3)	1/30						127	E－09	動力制御盤標準回路図	—					
28	A－28	平面詳細図(4)	1/30	78	AL－01	詳細図-1 室外機置場	図示		128	E－10	通信総合収納盤・端子盤構成表・HUB収納盤姿図	—					
29	A－29	矩計図(1) 休憩所北側	1/20	79	AL－02	詳細図-2 配管ビット	1/20.1/40		129	E－11	誘導支援・監視カメラ設備参考機器姿図	—					
30	A－30	矩計図(2) 休憩所南側	1/20	80	AL－03	詳細図-3 塀	1/15		130	E－12	日本館御殿 電灯(照明)設備配線図	1/60					
31	A－31	矩計図(3) 御座所南側	1/20	81	AL－04	詳細図-4 橋	1/15.1/25		131	E－13	日本館御殿 電灯(非常用照明・誘導灯)設備配線図	1/60					
32	A－32	矩計図(4) エントランス部	1/5	82	AL－05	詳細図-5 橋 構造図	1/10		132	E－14	日本館御殿 電灯(コンセント分岐)設備配線図	1/60					
33	A－33	断面詳細図 エントランス部	1/20	83	AL－06	詳細図-6 既存橋 撤去図	1/5.1/10. 1/30		133	E－15	日本館御殿 電灯(幹線)設備ビット階配線図・構内配電線路図	1/60					
34	A－34	展開図(1) 復元展示室A(御座所) 復元展示室B(御次の間)	1/30	84	AL－07	詳細図-7 和船(1)	1/8		134	E－16	日本館御殿 電灯(幹線・コンセント分岐)設備 1階配線図 構内配電線路図	1/60					
35	A－35	展開図(2) 復元展示室C・前室 復元展示室廊下1.2	1/30	85	AL－08	詳細図-8 和船(2)	1/8		135	E－17	日本館御殿 通信設備系統図	—					
36	A－36	展開図(3) エントランス部	1/30						136	E－18	日本館御殿 構内交換・構内情報通信網・ 誘導支援設備配線図・構内通信線路図	1/60					
37	A－37	展開図(4) 廊下1、ホール	1/30	86	S－01	構造関係特記仕様書	—		137	E－19	日本館御殿 映像・音響・監視カメラ設備配線図	1/60					
38	A－38	展開図(5) 休憩スペースA,B,C,D,E,F	1/30	87	S－02	構造関係共通事項1	—		138	E－20	日本館御殿 火災報知設備凡例・系統図	—					
39	A－39	展開図(6) WC前室、WC1.2、多機能トイレ	1/30	88	S－03	構造関係共通事項2	—		139	E－21	日本館御殿 火災報知設備配線図	1/60					
40	A－40	建具・雨戸キープラン	1/100	89	S－04	木造基礎構造標準図	—		140	E－22	既設大木戸駐車場変電所単線結線図(改設)	—					
41	A－41	欄間キープラン	1/100	90	S－05	木造特記仕様書1	—		141	E－23	既設大木戸駐車場変電所姿図(改設)	—					
42	A－42	建具表(1) 共通事項	—	91	S－06	木造特記仕様書2	—		142	E－24	構内配電線路・構内通信線路線図	1/200					
43	A－43	建具表(2) G:硝子障子	1/30	92	S－07	木造特記仕様書3	—		143	E－25	電灯(外構照明)設備配線図	1/100					
44	A－44	建具表(3)	1/30	93	S－08	木造工事補足事項1											
45	A－45	建具表(4) WDG:硝子障子戸	1/30	94	S－09	木造工事補足事項2	—		144	M－01	特記仕様書-1	—					
46	A－46	建具表(5) WDM:舞良戸	1/30	95	S－10	木造標準図1	—		145	M－02	特記仕様書-2	—					
47	A－47	建具表(6) WDC:杉戸、WDB:板戸	1/30	96	S－11	木造標準図2	—		146	M－03	機器表・衛生器具表	—					
48	A－48	建具表(7) H:ふすま	1/30	97	S－12	木造標準図3	—		147	M－04	空調・換気設備 ダクト系統図	—					
49	A－49	建具表(8) WDS:木製雨戸	1/30	98	S－13	木造標準図4	—		148	M－05	空調設備 ダクト平面図	1/60					
50	A－50	建具表(9) AD:アルミ製戸、AG:アルミガラリ 網戸:アルミ枠網戸、WD:木製戸	1/30	99	S－14	新御殿 基礎伏図	1/60		149	M－06	換気設備 ダクト平面図	1/60					

※縮尺はA1版の場合です。

[illegible]

15 金 属 工 事	○ アルミニウム及び アルミニウム合金の 表面処理	(14.2.1)(表 14.2.1)	左 官 工 事	○ モルタル塗り	(15.3.2、5)	○ セッコイ塗り	(15.10.2～4)	○ 網戸等	形状及び仕上げ 表面処理 外部に面する建具 種別（標準仕様書表14.2.1） ・BB-1 ○BB-2（着色 ・標準色 ○特注色） 屋内の建具 種別（標準仕様書表14.2.1） ・BC-1 ○BC-2（着色 ・標準色 ○特注色） 結露水の処理方法 ・水貯め式 ○排水式 工法 水切り板、ぜん板 ※図示による 木下地の場合の内付け建具 ・適用しない ○適用する				
	・ 鉄鋼の亜鉛めっき	(14.2.2)(表 14.2.2)		・ ラス系下地	(15.2.4)	・ こまい壁塗り	(15.11.2～5、7、8)		性能値等 耐風圧性の等級（ ） 気密性の等級（ ） 水密性の等級（ ） 外部に面する建具の種別				
	○ 軽量鉄骨天井下地	野縁等の種類 屋外 ※25形 ・19形 屋内 ※19形 ・25形 屋外の形式及び寸法 野縁受け、つりボルト及びインサートの間隔 ・図示による 周辺部の端からの間隔 ・図示による 野縁の間隔 ・図示による ・つりボルトの間隔が900mmを超える場合 （補強方法 ※図示による ） ・天井のふところ高が3.0mを超える場合 （補強方法 ※図示による ） ・天井下地材における耐震性を考慮した補強 （補強箇所 ・図示による ） （補強方法 ※図示による ） 耐震性能 建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による。 屋外の軒天井、ピロティ天井の工法 1章 適用区分による風圧力の（ ・1 ○1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法		○ セッコウボード その他のボード下地	(15.2.5)	塗厚 ※標準仕様書表15.11.8による ・建築基準法に基づく耐力壁の指定がある場合（ ） ・ こまい壁の工程 ※A種 ・B種 こまい壁塗りの上塗りとする土物仕上の工法の種類 ・土物仕上り工法 ・水ごね土物1工法 ・水ごね土物2工法 ・のりさし土物工法 ・のりこね土物工法 ・砂壁仕上り工法 ・切返し仕上り工法 こまい壁塗りの上塗りとする大津仕上の工法の種類 ・普通大津仕上り工法 ・大津みがき仕上り工法	のり ・土壁用ののり ※つものまた ・ふのり ・ぎんなんそう ・粉末海藻 ・ ・砂壁用ののり ※ふのり ・つものまた ・こんにゃくのり ・にかわ ・合成高分子系混和剤 ・ 色土 ・土物仕上に用いる色土の種類（ ） ・大津仕上に用いる色土の種類（ ） 色砂の種類 ・天然砂と岩石の砕砂 ・人工的に着色・製造したもの 下塗りの調査 ※標準仕様書表15.11.2 ・ 塗厚 ※標準仕様書表15.11.8による ・建築基準法に基づく耐力壁の指定がある場合（ ） ・ こまい壁の工程 ※A種 ・B種 こまい壁塗りの上塗りとする土物仕上の工法の種類 ・土物仕上り工法 ・水ごね土物1工法 ・水ごね土物2工法 ・のりさし土物工法 ・のりこね土物工法 ・砂壁仕上り工法 ・切返し仕上り工法 こまい壁塗りの上塗りとする大津仕上の工法の種類 ・普通大津仕上り工法 ・大津みがき仕上り工法		性能値等 耐風圧性の等級（ ） 気密性の等級（ ） 水密性の等級（ ） 外部に面する建具の種別				
	・ 軽量鉄骨壁下地	スタッド、ランナの種類 ※標準仕様書 表14.5.1によるスタッドの高さによる区分に応じた種類 ・図示による ・ スタッドの高さが5.0mを超える場合 ※図示による 出入口及びこれに準ずる開口部の補強 ※標準仕様書14.5.4.(5)による ・		・ こまい下地	(15.2.6)	・ 防火戸	(16.1.3)		性能値等 簡易気密型ドアセット ・適用する （建具符号 ・建具表による ） ○適用しない 外部に面する建具の耐風圧性 耐風圧性の等級（ ） （建具符号 ・建具表による ） 防音ドア・防音サッシ 遮音性の等級（ ） （建具符号 ・建具表による ） 断熱ドア・断熱サッシ [G] 断熱性の等級（ ） （建具符号 ・建具表による ） 耐震性能 建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による				
	○ 金属成形板張り	(14.6.2、3)(表 14.2.1)		○ 仕上塗材仕上げ	(15.6.2)	・ 見本の製作等	(16.1.4)		材料 ガラス ※複層ガラス（組合せは建具表による） ・ ステンレス製のくつずりの仕上げ ※HL 形状及び仕上げ 表面色 ・標準色 ・特注色 工法 水切り板、ぜん板 ※図示による ・ 木下地の場合の内付け建具 ・適用しない ・適用する				
	・ アルミニウム製笠木	同等級：株式会社制作美術研究所 アルミダイキャストパネル 株式会社ミツク アルミ鋳物製品 外装パネル 株式会社北陸アルミニウム株式会社 Vプロアルミキャスト 取付け用下地 ※標準仕様書14.4による ・図示による 伸縮調整継手 ・設ける （施工箇所 ・図示による ） ○ 設けない 屋外の軒天井、ピロティ天井の工法 1章 適用区分による風圧力の（ ・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法 種類 ・250形 ・300形 ・350形 表面処理 種別（ ）種 色合等 ・標準色（ ） ・特注色（ ）		○ 塗装調査料	主成分：消石灰 工法 ：素地調整（ワイヤーブラシなどによるゴミや汚れを除去。（pH10以下、含水率8%以下 下塗り 1回、上塗り2回 塗装方法：ローラー ぐ 同等級 ：関西ペイント アレスシックイ ：池田コーポレーション スイス漆喰カルクウォール	○ アルミニウム製建具	(16.2.2～5) (表14.2.1)（表16.2.1、2)		性能値等 耐風圧性の等級（○ S-2 ） （建具符号 ○建具表による ） 気密性の等級（○ A-3 ） （建具符号 ○建具表による ） 水密性の等級（○ W-3 ） （建具符号 ○建具表による ） 外部に面する建具の種別				
	○ 鋼製 飾金物	対象 釘隠し（六葉） 釘隠し（丸型） 出隅金物+雨戸回転金物 通棚裝飾金具（金物A、金物B、 金物C、金物D、革返し金物） 襖裝飾金具（引き手、天袋/地袋引き手、 裝飾A、裝飾B、裝飾C） ○同等級 小西美術工芸社 鋼製金物 制作美術研究所 鋼製金物 土屋金属工業 鋼製金物 ※鋼板厚については、監督職員と協議により決定 すること。 ※金鍍金（電気又は貼り付け工法）仕上げについては、 純金99.7%以上の軟質メッキとし、金の厚さは 2ミクロン以上とする。 ※金鍍金には剥落防止用の塗装を施すこと。 ※詳細形状については、敷地内遺構調査の出土品 を参照すること。		・ マスチック塗材塗り	(15.7.2)	香山建築研究所 KOHYAMA ATELIER 一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所 東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F 管理技術者 長谷川祥久（一級建築士第289714号） 一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所 東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F 専任主任技術者 松本洋平（一級建築士第367970号）	種別 ・A種 ・B種 ロックウールのホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ 接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ 仕上げ吹付け厚さ ・図示による ・25mm		性能値等 耐風圧性の等級（ ） 気密性の等級（ ） 水密性の等級（ ） 外部に面する建具の種別				
	○ 真鍮製 飾金物	対象 欄干金物（世金物） ○同等級 小西美術工芸社 鋼製金物 制作美術研究所 鋼製金物 土屋金属工業 鋼製金物 ※鋼板厚については、監督職員と協議により決定 すること。 ※詳細形状については、敷地内遺構調査の出土品 を参照すること。		・ ロックウール吹付け	(15.12.2、3)		・ 鋼製建具		性能値等 耐風圧性の等級（ ） 気密性の等級（ ） 水密性の等級（ ） 外部に面する建具の種別				
										性能値等 耐風圧性の等級（ ） 気密性の等級（ ） 水密性の等級（ ） 外部に面する建具の種別			
										性能値等 耐風圧性の等級（ ） 気密性の等級（ ） 水密性の等級（ ） 外部に面する建具の種別			

令和7年度新宿御苑日本館御殿工事（I）				A-03
木造特記仕様書（その1-3）			A1：－ A3：－	03
環境省新宿御苑管理事務所				164

[illegible]

○ 塗装

20の1 断熱・防露 ユニット及びその他の工事	材料	<20.2.2>	断熱材のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆	・
	○断熱材			
	断熱材の種類	規格番号	厚さ又は密度等	
	分類	材料名		
	○フェルト状断熱材	○グラスウール	○JIS A 9521	24kg/m ³ ,45,60,90mm 32kg/m ³ ,45mm
	○ボード状断熱材	・グラスウール		10mm
		○ロックウール		50mm
		・ピーズ法ポリスチレンフォーム		
		○押出法ポリスチレンフォーム		
	・硬質ウレタンフォーム	○JIS A 9523	45mm、60mm	
・ポリエチレンフォーム				
○フェノールフォーム 1種2号C				
・インシュレーションファイバー				
・ばら状断熱材	・グラスウール	・ JIS A 9523		
・ロックウール				
・現場発泡断熱材	○吹付硬質ウレタンフォームA種1又はA種1H（難燃性を有するもの）	○JIS A 9526		
○現場発泡断熱材（品質・性能、試験方法は別表による）				
施工箇所 ※図示による				
○断熱材現場発泡工法				
断熱の種類				
○A種1又はA種1H				
吹付け厚さ（mm）				
・20 ○25 ・30				
施工箇所				
○図示による				
○防湿材				
種類				
木造標準仕様書20.2.2(2)による				
○(a) ・(b) ・(c)				
○アルミ付き				
厚さ				
・図示による ○0.2mm				
施工箇所				
○図示による				
○気密材				
種類				
木造標準仕様書20.2.2(3)による				
・(a) ・(b) ・(c) ・(d) ・(e) ・(f) ・(g)				
厚さ				
・図示による ○0.2mm				
施工箇所				
○図示による				
・防風材				
種類				
※JIS A 6111に基づく透湿防水シートB				
厚さ				
・図示による				
施工箇所				
・図示による				
断熱材及び防湿層の施工				
<20.2.4>				
○充填断熱工法				
・外張断熱工法				
防蟻処理				
・行う（適用箇所： ）（処理の種類： ）				
・行わない				
・防湿層の施工				
・省略する				
各部位の工法				
<20.2.5>				
※木造標準仕様書20.2.5(f)から(i)までによる				
・				
・サイディング工事				
<20.3.2>				
・窯業系サイディング工事				
サイディング				
通気胴縁				
樹種名 ※杉				
・防腐処理種類（ ）				
施工				
張り方				
・縦張り工法 ・横張り工法				
換気口部の防水措置				
※木造標準仕様書20.3.2(3)(c)①から④による				
・図示による				
現場塗装用サイディングの下地処理及び仕上げ				
・				
・複合金属サイディング工事				
サイディング				
<20.3.3>				
通気胴縁				
樹種名 ※杉				
・防腐処理種類（ ）				
施工				
張り方				
・縦張り工法 ・横張り工法				
換気口部の防水措置				
※木造標準仕様書20.3.2(3)(c)①から④による				
・図示による				

薄形パネルの区分	<20.4.2><20.4.3>			
形状による区分	表面加工の有無による区分	厚さ(mm)	幅(mm)	長さ(mm)
・一般パネル	・平パネル ・意匠パネル	・	・	・
・コーナーパネル	・平パネル ・意匠パネル	・	・	・

通気胴縁

樹種名 ※杉

・防腐処理種類（ ）

施工

パネルの構法

・通気構法 ・直張り構法

パネルの取付け

・横張り工法 ・縦張り構法

(20.2.2)

施工箇所	構法	寸法 (mm)	高さ (mm)	耐震性能	所定荷重	表面仕上材	備考
	・置敷式 ・支柱 ・調整式	・500×500		・1.0G ・0.6G	・3,000N ・5,000N	・帯電防止床タイル ・タイルパット	

寸法精度

※標準仕様書20.2.2(2)(オ)～(c)による

・以下による

パネルの長さの寸法精度（ ）

パネルの平面形状（角度）の寸法精度（ ）

フリーアクセスフロアの高さの寸法精度（ ）

帯電防止性能

・評価値（U）≧0.6以上

・評価値（U）≧1.2以上

感電防止性能

漏えい抵抗（R）≧1×10⁴Ω

(品質・性能、試験方法は別表による)

(20.2.3)

構造形式による種類	構成基材の種類		パネル表面仕上げ	遮音性 (dB/500Hz)	防火性能
	スタッド	パネル			
・スタッド式(内蔵) ・スタッド式(露出) ・スタッドパネル式 ・パネル式			・キシミ樹脂焼付又は アクリル樹脂焼付 ・壁紙張り ・	・0 ・12 ・20 ・28 ・36	・不燃

パネル内に取付ける建具

・有り（※図示による ）

・無し

パネル内に取り付ける建具のドアクローザー、丁番、錠前、上げ落としは、標準仕様書16章8節の建具用金物に対応する材質とする。

表面仕上材を壁紙張りとする場合の品質、性能は標準仕様書19章による。

パネル材料のホルムアルデヒド放散量

※F☆☆☆☆

(20.2.4)

走行方向	操作方法による種類	パネル圧接装置の操作方法	総厚さ (mm)	パネル表面材		遮音性 (dB/500Hz)
				材質	仕上げ	
・平行方向 移動式	・手動式	・ブッシュ式		・鋼板	・焼付塗装	・36未満
・二方向 移動式	・電動式	・ホルドル式		・壁紙張り	・	・36以上
	・部分電動式	・		・	・	

パネル表面仕上げ材の壁紙張りの品質、性能は標準仕様書19章による。

ハンガーレールの取付け下地の補強

※取付け全重量の5倍以上の荷重に対して、使用上支障のない耐力及び変形量となるように補強する

・図示による

パネルをランナーに取り付ける部品

※ランナーに加わる重量の5倍以上の荷重に耐えられるもの

ハンガーレール及びランナー

※パネル重量の5倍の荷重を、パネル1枚に使用するランナー数で除した値に対して、耐力及び変形量が使用上支障のないもの

(品質・性能は別表による)

(20.2.5)

表面材の材料		脚部	ドアエッジ	
		種類	材質	形状
・メラミン樹脂系化粧板	・	※幅木タイプ	※製造所の仕様による	・標準
・ポリエステル樹脂系化粧板	・		・アルミニウム製	・Rタイプ
・	・		・ステンレス製	
			・表面材と同材	

(品質・性能、試験方法は別表による)

(20.2.6)

材料の種類及び仕上げ

・SUS304 表面処理 ※HL程度

・鋼製 表面処理 溶融亜鉛めっき（※標準仕様書 表14.2.2による種別（ ） 種）

・アルミニウム 表面処理（※標準仕様書 表14.2.1による種別（ ） 種）

色合等 ・標準色（ ） ・特注色（ ）

手すりの握り部分

材種	表面仕上げ	直径(mm)	取付箇所	備考
○集成材（材種： ヒノキ ）	○クリアラッカー	・30程度 ・35程度 ○38程度	内部階段1 内部スロープ2	
・ビニル製ハンドレール		・30程度 ・35程度 ・45程度		
○ステンレス	○HL	○30程度	内部中央エントランス	

・黒板及び ホワイトボード	(20.2.9)					
・黒板 区分						
※焼き付け 種類	・					
・銅製黒板						
・ほうろう黒板						
・						
色						
※緑	・					
・ホワイトボード						
取付け箇所（日本館：WC1、WC2、多機能トイレ 付属棟：WC1、WC2、多機能トイレ）	(20.2.10)					
寸法（mm）	○図示による					
厚さ（mm）	※5					
○四方見切り：SUS-FB13 HL 同等品、リクシル 防錆化粧鏡 KF-4560A TOTO 化粧鏡（耐食鏡）角型 YM4560F	(20.2.11)					
衝突防止表示						
○設置場所 ※図示による ○AD-1,AD-2,AD-3のガラス面FL+900付近						
形状・寸法（ ・30φ ○円形φ20×4φ900 ）						
材質（ ・ステンレス製 ・塩ビシート ）						
・設置しない						
誘導標識、非常用進入口等の表示						
※消防法に適合する市販品						
室名札、ピクトグラフ、案内板等の形状、寸法、材質、色、書体、印刷等の種別、取付け形式等（案内用図記号はJIS Z 8210による）						
※図示による						
材質及び仕上げ	(20.2.12)					
・SUS304（スリッパ止め加工 ※あり ・なし ）						
（※標準仕様書表14.2.2による種別（※C種 ・ 種））						
適用安全使用温度	(20.2.13)					
・						
工法						
※鋼製ユニット煙突(煙突用成形ライニング材)						
・						
・ブラインド	(20.2.14)					
形式	操作方法	操作方法の種類	スラットの種類	スラット幅	ボックス・レールの材質	幅・高さ 取付箇所
・横形	・手動	※ギヤ式 ・コード式	※アルミ合金製	※25	※鋼製	・図示による
		・操作様式				
・縦形	・手動	※2本操作コード式 ・1本操作コード式	・アルミスラット ・クロススラット	・80 ・100	※アルミ合金製	・図示による
		・電動				
縦型ブラインドのスラットの材質						
・アルミスラット 焼付け塗装仕上げ						
・クロススラット 消防法で定める防火性能の表示がある特殊樹脂加工						
ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は						
とする						
(20.2.15)						
操作方法	スクリーンの材質	その他の材料	幅・高さ 取付箇所	品質等		
・スプリング式 ・コード式 ・電動式	・ガラス繊維製 ・合成・天然繊維製	※製造所の仕様	・図示による	・		
スクリーンの仕様						
消防法で定める防火性能の表示があるもの						
ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は						
とする						
(20.2.16)						
形式	開閉操作	ひだの種類	生地の種類、 品質、特殊加工等	取付け 箇所	備考	
・シングル ・ダブル	・手引き ・引分け ・電動	・つまみひだ ・箱ひだ、片ひだ ・ブレンツヒだ		・図示による		
						（暗幕）
生地の仕様						
消防法で定める防火性能の表示があるもの						
ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は						
とする						
暗幕用カーテンの両端、上部及び召合せの重なり						
※300mm以上						

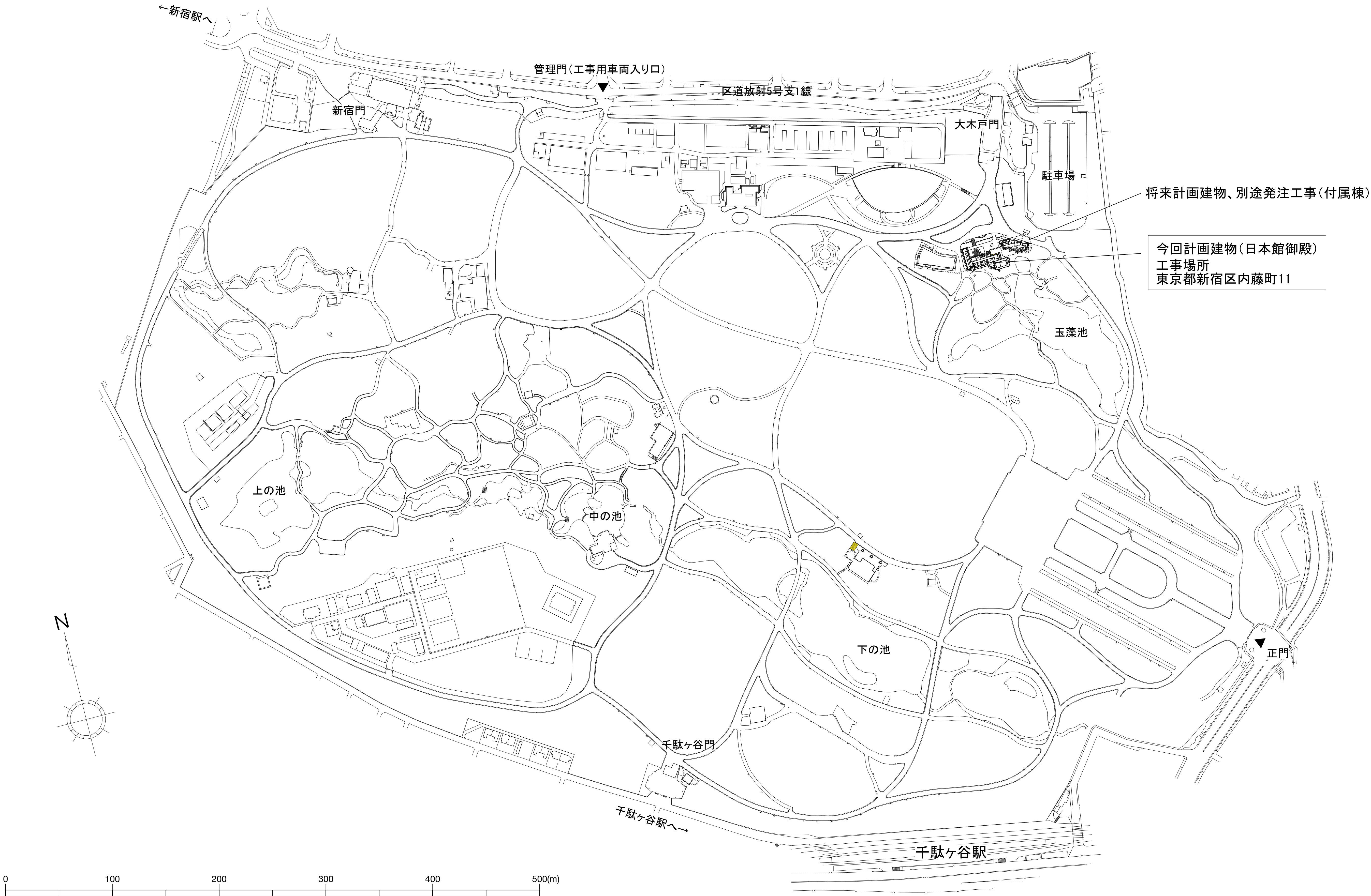
香山建築研究所 KOHYAMA ATELIER 一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所 東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F 管理技術者 長谷川祥久（一級建築士第289714号） 一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所 東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F 意匠主任技術者 松本洋平（一級建築士第367970号）	令和7年度新宿御苑日本館御殿工事（I） 木造特記仕様書（その1-6） A1：－ A3：－ 環境省新宿御苑管理事務所	A-06 06 164
---	---	-------------------

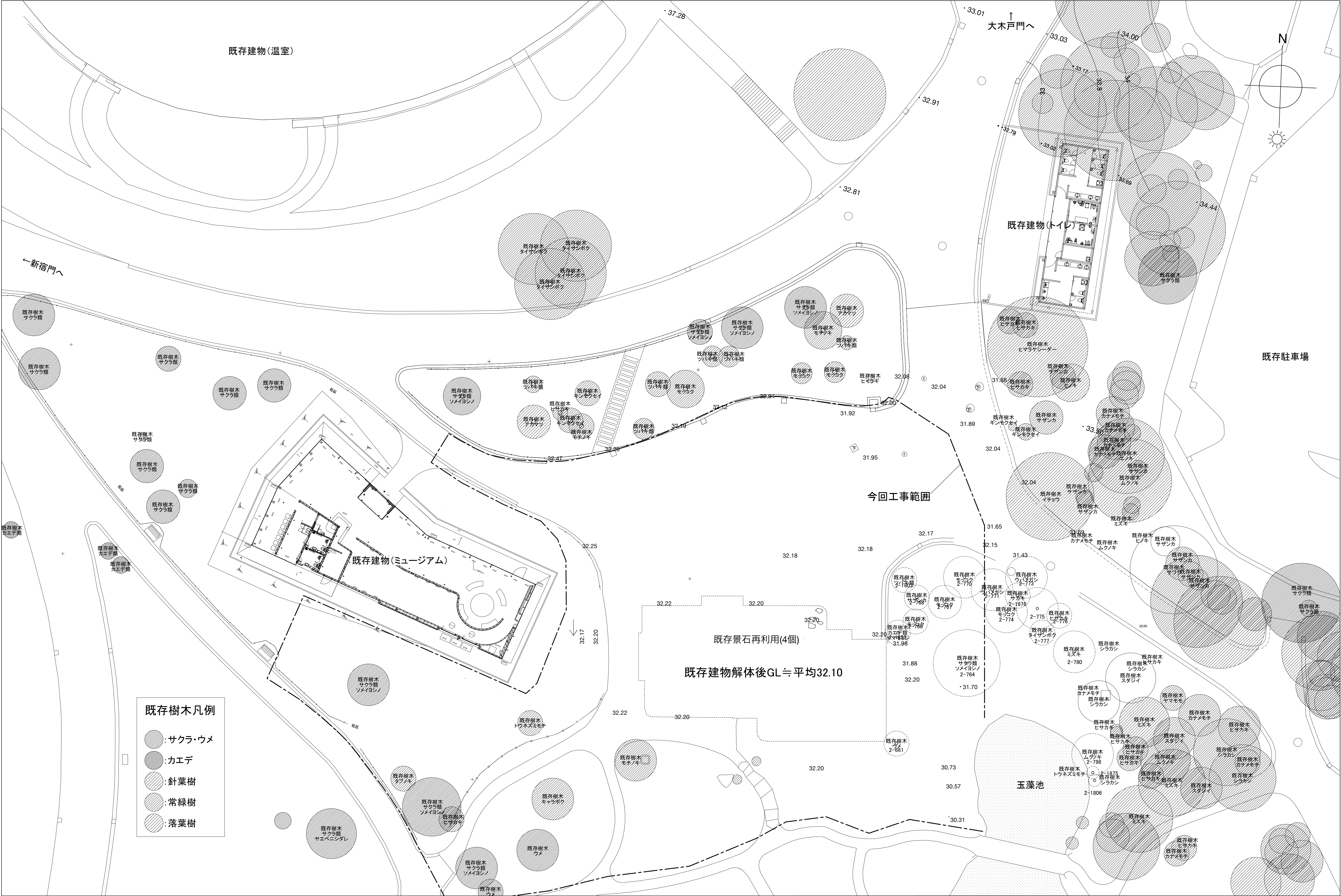
21 排水工事	○屋外雨水排水	材料 (21.2.1、2)(表 21.2.1、2)	舗装工事	○路床	路床の材料 (22.2.2、3、5)(表22.2.1)	○植込み用土	植栽基盤の排水設備 ・設ける（※図示による） ○設けない	○現場発生土の良質土 ・客土	(23.2.3)
	○硬質ポリ塩化ビニル管	基床の厚さ及び種類 ・図示による 硬質ポリ塩化ビニル管の継手に用いる材料 ※接着剤 ・ゴム輪 側境の形状及び寸法 ・図示による 排水樹、ふたの種類 ・図示による 砂地業に用いる材料 ・シルト ・山砂 ・川砂 ・砕砂 砂利地業に用いる材料 ・再生クラッシャラン ㊥ ・切込砂利又は切込砕石 ・現場打ちの場合のコンクリート材料 種類 ※普通コンクリート 設計基準強度(N/mm2) ※18 スランプ(cm) ※15又は18 ・現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※SD295 ・現場打ちの場合のコンクリート材料 種類 ※普通コンクリート 設計基準強度(N/mm2) ※18 スランプ(cm) ※15又は18 ・現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※SD295 ・排水桁が現場打ちの場合の足掛け金物 ※標準仕様書21.2.2(6)(7) 材質 ・ステンレス製 ・鋼製 ・合成樹脂被覆加工されたもの 凍上抑制層の厚さ ・図示による 凍上抑制層に用いる材料 ・ (砂を用いる場合の粒度試験) ・行う ・行わない	○路盤	路盤及び厚さ ○図示 路盤材料（標準仕様書 表22.3.1による種別）	○樹本	樹種、寸法、株立数等 ※図示	○支柱	支柱材 ※丸太（間伐材） ㊥ ・真竹 防腐処理方法 ※加圧式防腐処理丸太材 形式 ○図示	(23.3.2、3)
○溝鉄製ふた	溝鉄製マンホールふた	(21.2.1)	○アスファルト舗装	アスファルト舗装の構成及び厚さ (22.4.2～6)(表 22.4.4) ※図示による 材料 アスファルト ・再生アスファルト ㊥ ○脱色アスファルト （標準仕様書 表22.4.1による種類： ・60～80 ・80～100） ・ストレートアスファルト 骨材 ・道路用砕石 ○天然石川砂利6号 自然色 白色系 4色以上混合 ・アスファルトコンクリート再生骨材 ㊥ 加熱アスファルト混合物等の種類 ・密粒度アスファルト混合物(13) ・細粒度アスファルト混合物(13) ・密粒度アスファルト混合物(13F)	○新植・芝等の枯補償 ・移植樹木の枯損処置	新植樹木（芝張り、吹付けは種及び地被類を含む）の 枯補償の期間 ※引渡しの日から1年 ・無し 移植樹木の枯損処置を行う期間 ※引渡しの日から1年 ・無し	○地被類	植栽基盤及び材料 ・屋上緑化システム 土壌層の厚さ ・図示による 排水層 ・軽量骨材（層の厚さ： ） ・板状成形品 植込み用土 ※改良土 ・人工軽量土 樹木、芝及び地被類の樹種又は種類、寸法、株立数等 ※図示による 見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等 ※図示による (品質・性能、試験方法は別表による) 支柱 ・設置する ・設置しない 形式 ・図示による ・ かん水装置 ・設置する ・設置しない 種類 ・図示による ・ 工法 「屋根ふき材及び屋外に面する帳壁の風圧に対する構造耐力上の安全性を確かめるための構造計算の基準を定める件」（平成12年5月31日 建設省告示第1458号）に基づく風圧力に対応した工法 ・図示による	(23.4.2、6) (23.4.7)(23.5.5)
○街きょ、緑石及び側溝	街きょ、緑石、側溝 (21.3.1、2)(表21.3.1)	○緑石 ○U形側溝 ・U形側溝 ○U形側溝ふた ・ 砂地業に用いる材料 ・シルト ・山砂 ○川砂 ・砕砂 砂利地業に用いる材料 ・再生クラッシャラン ㊥ ○切込砂利又は切込砕石 砂利地業の厚さ（mm） ※100 ○図示 ○現場打ちの場合のコンクリート材料 種類 ※普通コンクリート 設計基準強度（N/mm ² ） ※18 スランプ（cm） ※15又は18 ・現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※SD295 凍上抑制層に用いる材料 ・ (砂を用いる場合の粒度試験) ・行う ・行わない	○砂利敷き	○樹木	土壌の水素イオン濃度指数（pH）試験 ・行う ・行わない 電気伝導度（EC）の試験 ・行う ・行わない 樹木の植栽基盤の整備 ○適用する ・適用しない	○芝、地被類	○図示による	○適用する ○適用しない	(23.5.2～4)
○埋戻し	○B種	(21.2.1)(表3.2、1)	植栽及び屋上緑化工事	23 植栽地の確認等 ○植栽基盤の整備	○樹木	○樹木	○樹木	○樹木	(23.2.2、4)

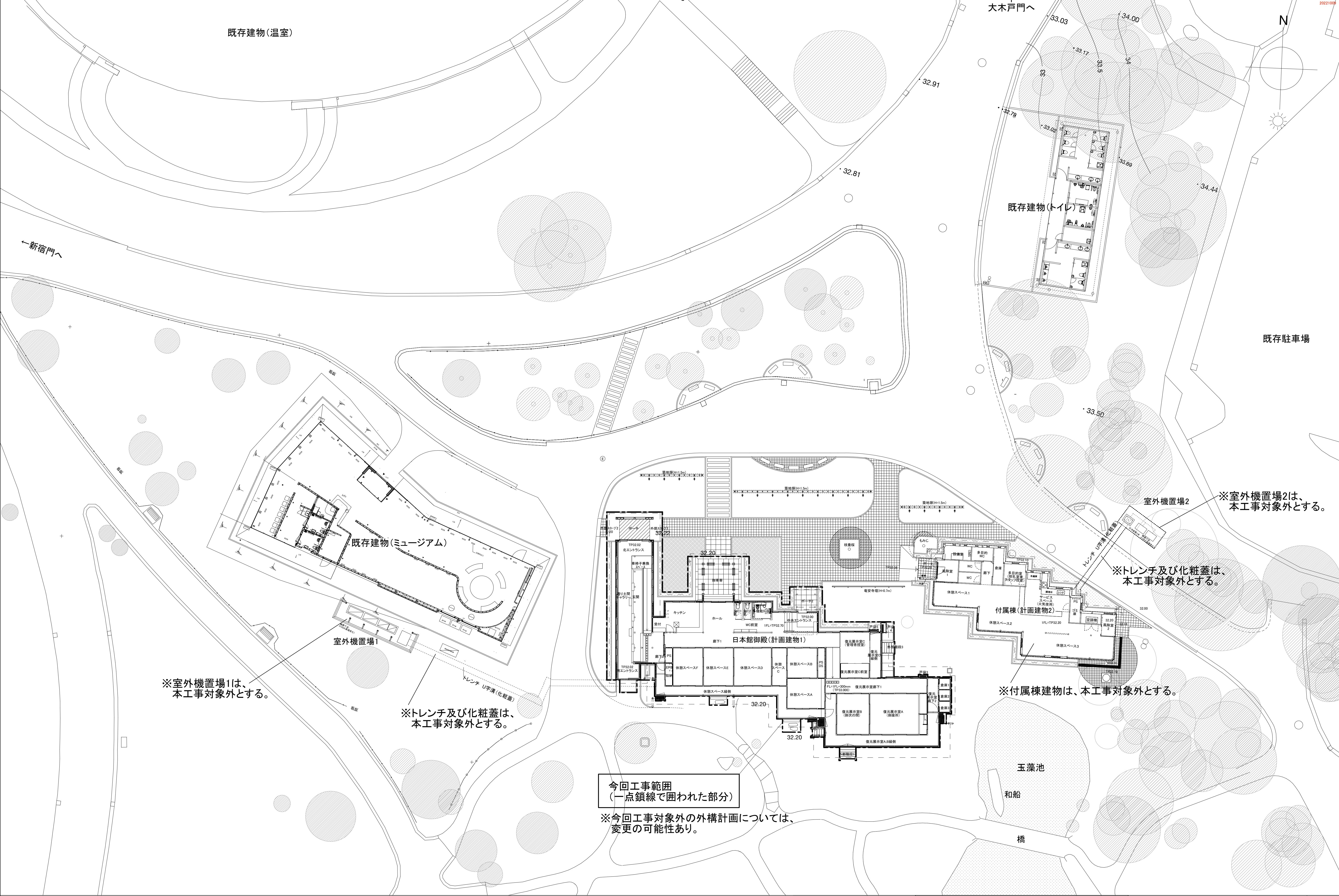
令和7年度新宿御苑日本館御殿工事（I）		A-07
木造特記仕様書（その1-7）		07
環境省新宿御苑管理事務所		164

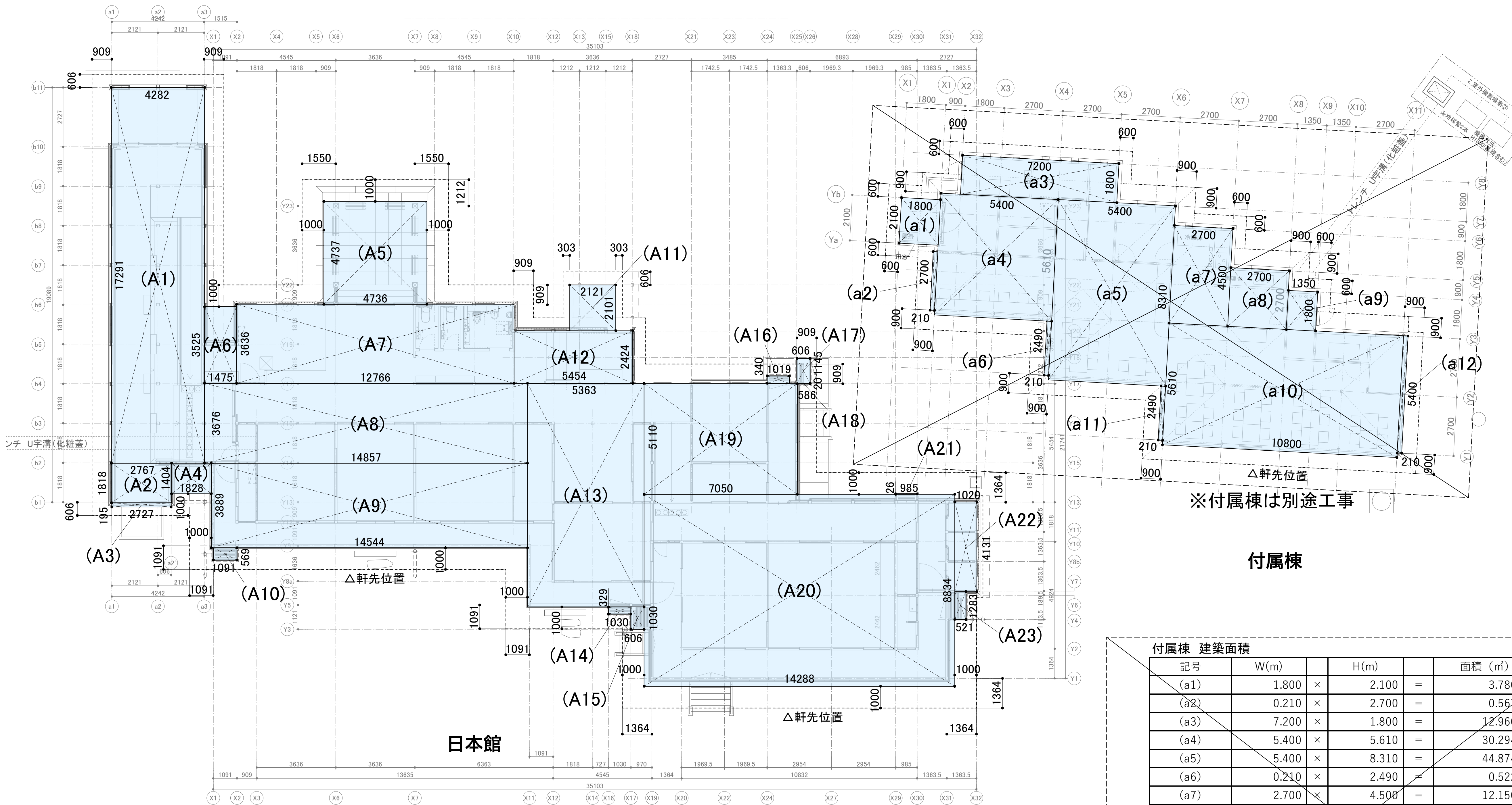
フリーアクセスフロア	品質	試験方法																															
	<p>〈フリーアクセスフロア〉 【標準仕様書20章】 (性能) 標準仕様書表20.2.2によるほか以下による。 (1)耐震性能 イ)固定台試験による耐震性能 (設計床高さ H=300mm超え、600mm以下の場合)</p> <table><tr><th>項目</th><th>性能</th></tr><tr><td>① ベースプレート又はアンカーが耐力に達したとき又はコンクリート接合面が剥離したとき</td><td>水平荷重の1/2が下記の＜適用地震時水平力＞以上</td></tr><tr><td>② 上記①以外の部分が耐力に達したとき</td><td>水平荷重の1/1.5が下記の＜適用地震時水平力＞以上</td></tr><tr><td>③ 適用地震時水平力を加力した時の支柱頂部の変位</td><td>構造床面からの高さの1/50以下</td></tr></table> <p>＜適用地震時水平力＞ 3,000N 0.6Gタイプ 支柱一本が負担する床加重(㎡当り自重+3,000N)/㎡当りの支柱本数)≧0.6 3,000N 1.0Gタイプ 支柱一本が負担する床加重(㎡当り自重+3,000N)/㎡当りの支柱本数)≧1.0 5,000N 0.6Gタイプ 支柱一本が負担する床加重(㎡当り自重+5,000N)/㎡当りの支柱本数)≧0.6 5,000N 1.0Gタイプ 支柱一本が負担する床加重(㎡当り自重+5,000N)/㎡当りの支柱本数)≧1.0</p> <p>ロ)振動台試験による耐震性能(設計床高さ≦300mmの場合のみ) パネルの脱落や使用上支障をきたす損傷、せり上がり、隙間及び水平移動がない。</p> <p>(2)歩行感 通常の歩行において空間音やたつきがなく、歩行感に違和感がない (3)メンテナンス性 交換が必要な部品については交換できるよう設計されている。</p> <p>(試験方法) (1)耐震性能 1)設計床高さ≦300mmの場合 試験体ユニット1000mm×2500mm程度 所定の重りの質量 3000N・200kg 5000N・350kg 加振 0.6G・所定加速度600cm／² 1.0G・所定加速度1000cm／² 2)300mm<設計床高さ≦600mmの場合 ①固定台による耐震性能試験 イ、支柱調整式－支柱分離型・支柱固定タイプの全てのタイプ共、下記の試験方法－1 又は、試験方法－2による。 ロ、原則として、試験方法－1はパネル単体設置(Aタイプ)に適用し、試験方法－2はパネル連続設置(Bタイプ)に適用するものとする。 ②試験方法－1 イ、試験は、コンクリートJIS A 5371「レキャスト無筋コンクリート製品 種類:N300」に接着した支柱の頂部に対し、水平方向に適用地震時水平力及び水平最大耐力まで加力し、各測定点における水平力、支柱頂部の変形量を測定する。 ロ、加力方向は、支柱要素に対して最も不利な方向とする。試験体数は、3個とする。 ③試験方法－2 イ、試験は、コンクリートJIS A 5371「レキャスト無筋コンクリート製品 種類:N300」に接着した数ユニットの支柱の頂部に對し、水平方向に数ユニット分相当の、適用地震時水平力及び水平最大耐力まで加力し、各測定点における水平力、支柱頂部の変形量を測定する。加力方向は、支柱要素に対して最も不利な方向とする。 ロ、最終的に水平力を支持する支柱の本数で除した値を、支柱1本当たりの水平力とする。また、800mm≧800mmに荷重値3,200 N (5,000 N／1㎡ 相当)を1箇所設ける。 試験体数は、1セツトとする。 ④零点校正及び測定記録 試験体と試験機の隙間等を除去するため、始めに適用地震時水平力の1／2程度の 水平力を加力した後、速やかに除荷して“0”にした状態を零点とする。また、水平力による各測定点の荷重及び変形曲線を測定し記録する。 3)共通事項 試験に使用する表面仕上材 種類:タイルカーペット 繊維素材:ナイロン100 % パイル携帯:ループパイル パイル長:3.0mm～4.0mm パッキング素材:塩化ビニル樹脂 全厚:6.0mm～7.0mm 単位質量:4.0kg/㎡～64.0kg/㎡ 人体耐電圧:2KV以下</p>		項目	性能	① ベースプレート又はアンカーが耐力に達したとき又はコンクリート接合面が剥離したとき	水平荷重の1/2が下記の＜適用地震時水平力＞以上	② 上記①以外の部分が耐力に達したとき	水平荷重の1/1.5が下記の＜適用地震時水平力＞以上	③ 適用地震時水平力を加力した時の支柱頂部の変位	構造床面からの高さの1/50以下																							
項目	性能																																
① ベースプレート又はアンカーが耐力に達したとき又はコンクリート接合面が剥離したとき	水平荷重の1/2が下記の＜適用地震時水平力＞以上																																
② 上記①以外の部分が耐力に達したとき	水平荷重の1/1.5が下記の＜適用地震時水平力＞以上																																
③ 適用地震時水平力を加力した時の支柱頂部の変位	構造床面からの高さの1/50以下																																
移動間仕切	<p>〈移動間仕切〉 【標準仕様書20章】 (標準仕様書表20.2.4によるほか以下による。) (品質) (1)パネル(表面材、心材、フレーム材、幅木、笠木及び補強材)及びハンガーレールは、JIS A 6512「可動間仕切」の表9 材料 又はこれらと同等以上の品質性能を有し、かつ、接触腐食をおこなないもの又は防食処理を施したものと (2)パネルの外観 JIS A 6512「可動間仕切」に規定する5.a)～c)による。 (性能) (1)パネルの操作性 パネル操作の初動力は98N以下とする。 (2)パネル圧接装置の耐久性 パネル圧接装置の固定・解除は、7,500回の繰返し耐久試験実施後、質量50kg衝撃試験で異常のないものとする。 (3)耐衝撃性 パネル圧接装置の耐久性試験後、質量50kgにおける衝撃試験において構造部材の折れ、曲りの異常がなく、表面の割れ、はがれのないものとする。また、接点・接床部が外れないこと及び多少のずれがあっても圧接装置の調整で元に戻せるものとする。 (4)レールの耐久性 レールは普通パネルで、吊り車の通過回数が30,000回以上で異常のないものとする。 (5)吊り車の耐久性 吊り車は、走行距離60kmで操作性に異常がなく、レールに大きな変形がないものとする。 (6)ランナーの引張強度 引張試験を実施し、普通パネル重量の5倍の荷重を、パネル1枚に使用するランナーの数で除した値以上の強度があるものとする。 (7)吊りボルトの引張強度 一本にかかる荷重の15倍以上の引張強度があるものとする。 (8)遮音性能 JIS A 6512に規定する透過損失単位に基づく区分ごとに、500Hzの音について透過損失の規定値に適合すること。遮音性能試験は、JIS A 1416「実験室における建築物の空気音遮断性能の測定方法」に規定する試験方法又はJIS A 1441-1「音響－音響インテンシティ法による建築物及び建築部材の空気音遮断性能の測定方法－第一部:実験室における測定」による。 (9)ホルムラジド等 JIS等の材料規格において放散量が規定されているものについては、F☆☆☆☆とする。</p>																																
	トイレブース	<p>〈トイレブース〉 【標準仕様書20章】 (標準仕様書表20.2.5によるほか以下による。) (品質・性能) (1)付属金物</p> <table><tr><th>項目</th><th>品質・性能</th></tr><tr><td>ヒンジ</td><td>耐食性のあるものとする。</td></tr><tr><td>ラッチセット</td><td></td></tr><tr><td>戸当り</td><td>腐食の恐れのある材料には防錆処理を施してあるものとする。 戸当り部のゴムは、使用に十分耐える材質であるものとする。</td></tr></table> <p>(2)外観は、JIS A 6512「可動間仕切」の5.b)による。 (3)パネル表面材の耐薬品性・耐汚染性・耐ひびき性・開閉耐久性</p> <table><tr><th>項目</th><th>品質・性能</th></tr><tr><td>メラミン樹脂系化粧板及びメラミン樹脂系 単一材</td><td>JIS K 6903 (2008)「熱硬化性樹脂 高圧化粧板」の表8 品質 による耐汚染性(B法)の規定を満足していること。</td></tr><tr><td>低圧メラミン樹脂系化粧板</td><td>下記項目のポリエステル樹脂系加工化粧板、ポリエステル樹脂系化粧MDF、ポリエステル樹脂系化粧パーティクルボードのいずれかの品質に適合していること。</td></tr><tr><td>ポリエステル樹脂系加工化粧板</td><td>JAS「合板の日本農林規格」第9条 (特殊加工化粧板の規格)に規定する耐汚染性B試験を満足していること。</td></tr><tr><td>ポリエステル樹脂系化粧MDF</td><td>JIS A 5905「繊維板」に規定する表18の化粧MDFの品質に適合していること。</td></tr><tr><td>ポリエステル樹脂系化粧パーティクルボード</td><td>JIS A 5908「パーティクルボード」に規定する表11の化粧パーティクルボードの品質に適合していること。</td></tr></table> <p>(試験方法) (1)ヒンジは、JIS A 1510-2「建築用ドア金物の試験方法－第2部:ドア用金物」の規定による。 (2)戸当りの衝撃試験は、JIS A 1510-2の規定による。</p>		項目	品質・性能	ヒンジ	耐食性のあるものとする。	ラッチセット		戸当り	腐食の恐れのある材料には防錆処理を施してあるものとする。 戸当り部のゴムは、使用に十分耐える材質であるものとする。	項目	品質・性能	メラミン樹脂系化粧板及びメラミン樹脂系 単一材	JIS K 6903 (2008)「熱硬化性樹脂 高圧化粧板」の表8 品質 による耐汚染性(B法)の規定を満足していること。	低圧メラミン樹脂系化粧板	下記項目のポリエステル樹脂系加工化粧板、ポリエステル樹脂系化粧MDF、ポリエステル樹脂系化粧パーティクルボードのいずれかの品質に適合していること。	ポリエステル樹脂系加工化粧板	JAS「合板の日本農林規格」第9条 (特殊加工化粧板の規格)に規定する耐汚染性B試験を満足していること。	ポリエステル樹脂系化粧MDF	JIS A 5905「繊維板」に規定する表18の化粧MDFの品質に適合していること。	ポリエステル樹脂系化粧パーティクルボード	JIS A 5908「パーティクルボード」に規定する表11の化粧パーティクルボードの品質に適合していること。										
項目		品質・性能																															
ヒンジ	耐食性のあるものとする。																																
ラッチセット																																	
戸当り	腐食の恐れのある材料には防錆処理を施してあるものとする。 戸当り部のゴムは、使用に十分耐える材質であるものとする。																																
項目	品質・性能																																
メラミン樹脂系化粧板及びメラミン樹脂系 単一材	JIS K 6903 (2008)「熱硬化性樹脂 高圧化粧板」の表8 品質 による耐汚染性(B法)の規定を満足していること。																																
低圧メラミン樹脂系化粧板	下記項目のポリエステル樹脂系加工化粧板、ポリエステル樹脂系化粧MDF、ポリエステル樹脂系化粧パーティクルボードのいずれかの品質に適合していること。																																
ポリエステル樹脂系加工化粧板	JAS「合板の日本農林規格」第9条 (特殊加工化粧板の規格)に規定する耐汚染性B試験を満足していること。																																
ポリエステル樹脂系化粧MDF	JIS A 5905「繊維板」に規定する表18の化粧MDFの品質に適合していること。																																
ポリエステル樹脂系化粧パーティクルボード	JIS A 5908「パーティクルボード」に規定する表11の化粧パーティクルボードの品質に適合していること。																																
天井吊り点検口	煙突用成形ライニング材	<p>〈煙突用成形ライニング材〉 【標準仕様書20章】 (品質・性能)</p> <table><tr><th>種類</th><th>ゾノライト系付け酸カルシウムライニング材</th></tr><tr><td>加熱線収縮率</td><td>2.0%以下</td></tr><tr><td>曲げ強度</td><td>0.8N／㎡以上</td></tr><tr><td>圧縮強度</td><td>1.0N／㎡以上</td></tr><tr><td>スローリング性</td><td>試験体に亀裂の発生、剥離あるいは脱落等がないものとする。</td></tr><tr><td>透水性</td><td>試験体表面に水滴が生じないものとする。</td></tr><tr><td>耐酸性</td><td>試験体に形状変化が見られず、破壊する危険性がないものとする。</td></tr><tr><td>石綿</td><td>使用不可。</td></tr></table> <p>ライニング材とコンクリートの境界温度 100℃以下とする。 加熱線収縮率、曲げ強度、圧縮強度の確認は、社内試験成績書によることができる。 (試験方法) (1)スローリング性試験 適用安全使用温度(300℃)から適用安全使用温度まで100℃間隔で30分間加熱冷却を繰り返し、各温度設定時の加熱後及び冷却時の試験体亀裂、剥離、脱落の状況を観察する。(試験体は完成品とし、サイズは内径600mm×長さ1000mm程度とする。) (2)透水性試験 JIS A 5430「繊維強化セメント板」6 透水性試験による。 (3)耐酸性試験 1.0%濃度の硝酸及び硫酸水溶液に下記の方法で浸せきした後、試験体の外観を調べる。 試験は、試験体を温度20℃、湿度60%の試験室に24時間以上静置した後、酸水溶液に1週間(168時間)浸せきする。(ただし、酸水溶液は48時間毎に交換する。)その後、48時間以上温度20℃、湿度60 %の試験室に静置した後に外観観察を行う。(試験体のサイズは、100mm≧50mmとする。) (4)熱伝導率測定 JIS R 2616「耐火断熱れんがの熱伝導率の試験方法」による。 試験設定温度は100℃、150℃、300℃、450℃、600℃とする。</p>	種類	ゾノライト系付け酸カルシウムライニング材	加熱線収縮率	2.0%以下	曲げ強度	0.8N／㎡以上	圧縮強度	1.0N／㎡以上	スローリング性	試験体に亀裂の発生、剥離あるいは脱落等がないものとする。	透水性	試験体表面に水滴が生じないものとする。	耐酸性	試験体に形状変化が見られず、破壊する危険性がないものとする。	石綿	使用不可。															
		種類	ゾノライト系付け酸カルシウムライニング材																														
加熱線収縮率	2.0%以下																																
曲げ強度	0.8N／㎡以上																																
圧縮強度	1.0N／㎡以上																																
スローリング性	試験体に亀裂の発生、剥離あるいは脱落等がないものとする。																																
透水性	試験体表面に水滴が生じないものとする。																																
耐酸性	試験体に形状変化が見られず、破壊する危険性がないものとする。																																
石綿	使用不可。																																
天井吊り点検口	<p>〈天井吊り点検口〉 【標準仕様書20章】 (品質・性能) (1)内外枠の材質は、アルミニウム製とする。 イ)JIS H 4100「アルミニウム及びアルミニウム合金の押出形材」に規定するA6063S15又は同等の性能を有するものとする。 ロ)表面処理は、JIS H 8601「アルミニウム及びアルミニウム合金の陽極酸化被膜」に規定するAA6又は同等の性能を有するものとする。 (2)内枠及び外枠のコーナースペース 鋼板に亜鉛めっき等の防錆処理を行ったもの又は同等の性能を有するものとする。 (3)外枠の取付け金物 イ)吊り金具 鋼板に亜鉛めっき等の防錆処理を行ったもの又は同等の性能を有するものとする。 ロ)吊り金具取付けボルト 鋼板に亜鉛めっき等の防錆処理を行ったもの又は同等の性能を有するものとする。 (4)内枠の仕上り材留付金物 アルミニウム及びアルミニウム合金押出形材、亜鉛めっき鋼板の類い又は同等以上の品質並びに仕上り材を固定する性能を有するものとする。 (5)寸法許容差(枠の許容差) 枠の寸法許容差 7.0≧5mm 外枠と内枠のクリアランス(片側)2.0mm以内 (6)耐久性(繰り返し開閉試験) 1)繰返し試験後の内蓋の垂れ下がりが、50回、100回及び300回で0.5mm以内とする。 2)開閉試験後、使用上支障をきたす異常がないこと。</p> <p>(試験方法) 内蓋(内枠)の繰り返し開閉試験 (1)試験体は、枠見込み40mm程度のものとする。 (2)吊り金物は、外枠を天井下地取付け補強材に直接留付け方式(天井ボードなどの仕上材を挟んで固定しない方式)とする。標準仕様書14章4節により製作した試験体固定用天井下地開口補強に試験体の天井吊り点検口450mm≧450mmを吊り金具4箇所にて各メーカー仕様に従い取付ける。 (3)野線の種類は19形とし、仕上材はせっこうボード厚さ9.5mm(JIS A 6901「せっこうボード製品」に規定するGB－Rの難燃2級又は発燃性2級以上)二重張りとする。 (4)試験は、内蓋を閉じた状態から自由開放状態にする動作を繰り返し行う。 (5)測定は、上記繰り返し試験において、各50回、100回、300回毎に内蓋の垂れ下り寸法を測定する。</p>																																
床吊り点検口	グレーチング	<p>〈床吊り点検口〉 【標準仕様書20章】 (品質・性能)以下のもの又は同等のものとする。 (品質・性能) (1)付属金物</p> <table><tr><th>部材名</th><th>材質</th><th>屋内外用</th><th>屋内用</th></tr><tr><td>受枠材 蓋枠材</td><td>アルミニウム及びアルミニウム合金押出形材</td><td>JIS H 4100「アルミニウム及びアルミニウム合金の押出形材」に規定するA6063S-T5 (表面処理)JIS H 8602「アルミニウム及びアルミニウム合金の陽極酸化塗装被膜」に規定するB種又はJIS H 8601「アルミニウムの及びアルミニウム合金の陽極酸化被覆」に規定するAA15</td><td>JIS G 4300「アルミニウム及びアルミニウム合金の陽極酸化被覆」に規定するFC150、FC200</td></tr><tr><td></td><td>ステンレス製</td><td>JIS G 4305「冷間圧延ステンレス鋼 板及び鋼帯」に規定するSUS304、SUS430J1L、SUS443J1 (表面処理)HL又は2B仕上り程度</td><td>JIS G 4305のSUS430 (表面処理)HL又は2B仕上り程度</td></tr><tr><td></td><td>鋼製</td><td>－</td><td>鋼板又はJIS G 3313「電気亜鉛めっき鋼板及び鋼帯」の類いにメラミン樹脂塗付塗装等若しくは、標準仕様書表18.3.1及び表18.3.2の禁止め塗料塗り等の防錆処理を行ったもの</td></tr></table> <table><tr><th>部材名</th><th>品質・性能</th></tr><tr><td>二重蓋の中蓋</td><td>鉄鉄 JIS G 5501「ねずみ餌鉄品」に規定するFC150、FC200 塩化ビニル樹脂製等</td></tr><tr><td>目地材</td><td>黄銅 JIS H 3100「銅及び銅合金の板及び条」に規定する C2600、C2720、C2801 JIS H 3250「銅及び銅合金の棒」に規定する G3602、G3604 JIS G 4305 に規定するSUS304、SUS430J1L、SUS443J1 JIS G 4308「ステンレス鋼線材」に規定する SUS304</td></tr><tr><td>底板材 コーナースペース 底板補強材</td><td>ステンレス鋼板 JIS G 4305 に規定する SUS304、SUS430J1L、SUS443J1 JIS G 4308 に規定する SUS304</td><td>JIS G 4305 に規定する SUS430</td></tr><tr><td></td><td>アルミニウム板</td><td>－</td></tr><tr><td></td><td>鋼材</td><td>－</td></tr></table> <p>鋼板又はJIS G 3313「電気亜鉛めっき鋼板及び鋼帯」の類いにメラミン樹脂塗付塗装等若しくは、標準仕様書表18.3.1及び表18.3.2の禁止め塗料塗り等の防錆処理を行ったもの</p> <p>(試験方法) (1)許容差 イ)受け枠基準寸法 600角程度まで ロ)受け枠寸法の許容差 70.5mm ハ)蓋付寸法の許容差 70.5mm ニ)受け枠と蓋枠のクリアランス 片側2.0mm以内 (2)蓋の耐荷重性能 イ)加圧する荷重値P≧1,000N ロ)蓋中央部の残留たわみが点検口の有効径の0.08%以内 ハ)受け枠・蓋その他に使用上の支障がないこと ニ)破壊荷重が、加圧荷重値Phの2倍以上 (試験方法) 耐荷重試験 (1)試験体 イ)貼付用とし、600mm角程度とする。 ロ)枠見込みは、40mm以下とする。 (2)試験 イ)試験は、蓋枠の四周を支持させ、蓋の中央部にφ50mmの加圧板を設置し、加圧する。 ロ)本試験前に200Nを加圧した後、本試験を行う。 ハ)本試験は、1,000Nで加圧、荷重除去を3回繰り返し行なった後、その後試験体が破壊する(終局荷重)まで加圧する。 (3)測定 測定は、蓋中央部にかかる加圧を200N増す毎にたわみと受け枠の変形その他の異常について1,000mmで3回繰り返す。</p>	部材名	材質	屋内外用	屋内用	受枠材 蓋枠材	アルミニウム及びアルミニウム合金押出形材	JIS H 4100「アルミニウム及びアルミニウム合金の押出形材」に規定するA6063S-T5 (表面処理)JIS H 8602「アルミニウム及びアルミニウム合金の陽極酸化塗装被膜」に規定するB種又はJIS H 8601「アルミニウムの及びアルミニウム合金の陽極酸化被覆」に規定するAA15	JIS G 4300「アルミニウム及びアルミニウム合金の陽極酸化被覆」に規定するFC150、FC200		ステンレス製	JIS G 4305「冷間圧延ステンレス鋼 板及び鋼帯」に規定するSUS304、SUS430J1L、SUS443J1 (表面処理)HL又は2B仕上り程度	JIS G 4305のSUS430 (表面処理)HL又は2B仕上り程度		鋼製	－	鋼板又はJIS G 3313「電気亜鉛めっき鋼板及び鋼帯」の類いにメラミン樹脂塗付塗装等若しくは、標準仕様書表18.3.1及び表18.3.2の禁止め塗料塗り等の防錆処理を行ったもの	部材名	品質・性能	二重蓋の中蓋	鉄鉄 JIS G 5501「ねずみ餌鉄品」に規定するFC150、FC200 塩化ビニル樹脂製等	目地材	黄銅 JIS H 3100「銅及び銅合金の板及び条」に規定する C2600、C2720、C2801 JIS H 3250「銅及び銅合金の棒」に規定する G3602、G3604 JIS G 4305 に規定するSUS304、SUS430J1L、SUS443J1 JIS G 4308「ステンレス鋼線材」に規定する SUS304	底板材 コーナースペース 底板補強材	ステンレス鋼板 JIS G 4305 に規定する SUS304、SUS430J1L、SUS443J1 JIS G 4308 に規定する SUS304	JIS G 4305 に規定する SUS430		アルミニウム板	－		鋼材	－
		部材名	材質	屋内外用	屋内用																												
受枠材 蓋枠材	アルミニウム及びアルミニウム合金押出形材	JIS H 4100「アルミニウム及びアルミニウム合金の押出形材」に規定するA6063S-T5 (表面処理)JIS H 8602「アルミニウム及びアルミニウム合金の陽極酸化塗装被膜」に規定するB種又はJIS H 8601「アルミニウムの及びアルミニウム合金の陽極酸化被覆」に規定するAA15	JIS G 4300「アルミニウム及びアルミニウム合金の陽極酸化被覆」に規定するFC150、FC200																														
	ステンレス製	JIS G 4305「冷間圧延ステンレス鋼 板及び鋼帯」に規定するSUS304、SUS430J1L、SUS443J1 (表面処理)HL又は2B仕上り程度	JIS G 4305のSUS430 (表面処理)HL又は2B仕上り程度																														
	鋼製	－	鋼板又はJIS G 3313「電気亜鉛めっき鋼板及び鋼帯」の類いにメラミン樹脂塗付塗装等若しくは、標準仕様書表18.3.1及び表18.3.2の禁止め塗料塗り等の防錆処理を行ったもの																														
部材名	品質・性能																																
二重蓋の中蓋	鉄鉄 JIS G 5501「ねずみ餌鉄品」に規定するFC150、FC200 塩化ビニル樹脂製等																																
目地材	黄銅 JIS H 3100「銅及び銅合金の板及び条」に規定する C2600、C2720、C2801 JIS H 3250「銅及び銅合金の棒」に規定する G3602、G3604 JIS G 4305 に規定するSUS304、SUS430J1L、SUS443J1 JIS G 4308「ステンレス鋼線材」に規定する SUS304																																
底板材 コーナースペース 底板補強材	ステンレス鋼板 JIS G 4305 に規定する SUS304、SUS430J1L、SUS443J1 JIS G 4308 に規定する SUS304	JIS G 4305 に規定する SUS430																															
	アルミニウム板	－																															
	鋼材	－																															
無収縮グラウト材	無収縮グラウト材	<p>〈無収縮グラウト材〉 【改修標準仕様書8章】 (無収縮グラウト材の材質等)</p> <table><tr><th>混和材</th><th>セメント系(酸化カルシウム及びカルシウム・サルファ・アルミニウム等によって膨張する性質を利用するもの)とする。</th></tr><tr><td>セメント</td><td>JIS R 5210「ポルトランドセメント」に適合した普通または早強ポルトランドセメントとする。</td></tr><tr><td>砂</td><td>土木学会コンクリート標準示方書に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。ただし、現場調合形に使用される砂の乾燥状態については、規定しない。</td></tr></table> <p>(無収縮グラウト材の品質及び試験方法) コンシステンシー Jロードによる落下時間 繰り混ぜ完了から3分以内の値 872秒 ブリージング 繰り混ぜ2時間後のブリージング率 2.0%以下 凝結開始時間 1時間以上 終結時間 10時間以内 無収縮性 材齢 7日 収縮しない 圧縮強度 材齢 3日 20.0N/mm以上 材齢 28日 40.0N/mm以上 塩化塩量 0.30%/g以下 試験方法 1)NEXCO試験方法312-1990「無収縮モルタル品質管理試験方法」による。プレミックス形と現場調合形で混和材が同一の場合の試験はプレミックス形のみとする。 2)塩化物の試験は、JIS A 1144「フレッシュコンクリート中の水の塩化物イオン濃度試験方法」による。</p>	混和材	セメント系(酸化カルシウム及びカルシウム・サルファ・アルミニウム等によって膨張する性質を利用するもの)とする。	セメント	JIS R 5210「ポルトランドセメント」に適合した普通または早強ポルトランドセメントとする。	砂	土木学会コンクリート標準示方書に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。ただし、現場調合形に使用される砂の乾燥状態については、規定しない。																									
		混和材	セメント系(酸化カルシウム及びカルシウム・サルファ・アルミニウム等によって膨張する性質を利用するもの)とする。																														
セメント	JIS R 5210「ポルトランドセメント」に適合した普通または早強ポルトランドセメントとする。																																
砂	土木学会コンクリート標準示方書に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。ただし、現場調合形に使用される砂の乾燥状態については、規定しない。																																
無収縮グラウト材	<p>〈無収縮グラウト材の品質及び試験方法〉 コンシステンシー Jロードによる落下時間 繰り混ぜ完了から3分以内の値 872秒 ブリージング 繰り混ぜ2時間後のブリージング率 2.0%以下 凝結開始時間 1時間以上 終結時間 10時間以内 無収縮性 材齢 7日 収縮しない 圧縮強度 材齢 3日 20.0N/mm以上 材齢 28日 40.0N/mm以上 塩化塩量 0.30%/g以下 試験方法 1)NEXCO試験方法312-1990「無収縮モルタル品質管理試験方法」による。プレミックス形と現場調合形で混和材が同一の場合の試験はプレミックス形のみとする。 2)塩化物の試験は、JIS A 1144「フレッシュコンクリート中の水の塩化物イオン濃度試験方法」による。</p>																																

香山建築研究所 KOHYAMA ATELIER	令和7年度新宿御苑日本館御殿工事(Ⅰ)	別表(2)	A1: ー	A-09
			A3: ー	09
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所 管理技術者 長谷川祥久(一級建築士第28914号)	東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F	環境省新宿御苑管理事務所		164
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所 意匠主任技術者 松本洋平(一級建築士第36797号)	東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F			









日本館 建築面積

記号	W(m)		H(m)		面積 (㎡)	記号	W(m)		H(m)		面積 (㎡)	
(A1)	4.282	×	17.291	=	74.040062	(A13)	5.363	×	10.292	=	55.195996	
(A2)	2.767	×	1.818	=	5.030406	(A14)	1.030	×	0.329	=	0.338870	
(A3)	2.727	×	0.195	=	0.531765	(A15)	0.606	×	1.030	=	0.624180	
(A4)	1.828	×	1.404	=	2.566512	(A16)	1.019	×	0.340	=	0.346460	
(A5)	4.736	×	4.737	=	22.434432	(A17)	0.606	×	1.145	=	0.693870	
(A6)	1.475	×	3.525	=	5.199375	(A18)	0.586	×	0.020	=	0.011720	
(A7)	12.766	×	3.636	=	46.417176	(A19)	7.050	×	5.110	=	36.025500	
(A8)	14.857	×	3.676	=	54.614332	(A20)	14.288	×	8.834	=	126.220192	
(A9)	14.544	×	3.889	=	56.561616	(A21)	0.985	×	0.026	=	0.025610	
(A10)	1.091	×	0.569	=	0.620779	(A22)	1.020	×	4.131	=	4.213620	
(A11)	2.121	×	2.101	=	4.456221	(A23)	0.521	×	1.283	=	0.668443	
(A12)	5.454	×	2.424	=	13.220496	建築面積 (㎡)					=	510.057633

日本館 建築面積(㎡) = 510.057 ... (A)

付属棟

付属棟 建築面積

記号	W(m)		H(m)		面積 (㎡)
(a1)	1.800	×	2.100	=	3.780000
(a2)	0.210	×	2.700	=	0.567000
(a3)	7.200	×	1.800	=	12.960000
(a4)	5.400	×	5.610	=	30.294000
(a5)	5.400	×	8.310	=	44.874000
(a6)	0.210	×	2.490	=	0.522900
(a7)	2.700	×	4.500	=	12.150000
(a8)	2.700	×	2.700	=	7.290000
(a9)	1.350	×	1.800	=	2.430000
(a10)	10.800	×	5.610	=	60.588000
(a11)	0.210	×	2.490	=	0.522900
(a12)	0.210	×	5.400	=	1.134000
建築面積 (㎡)					= 177.112800

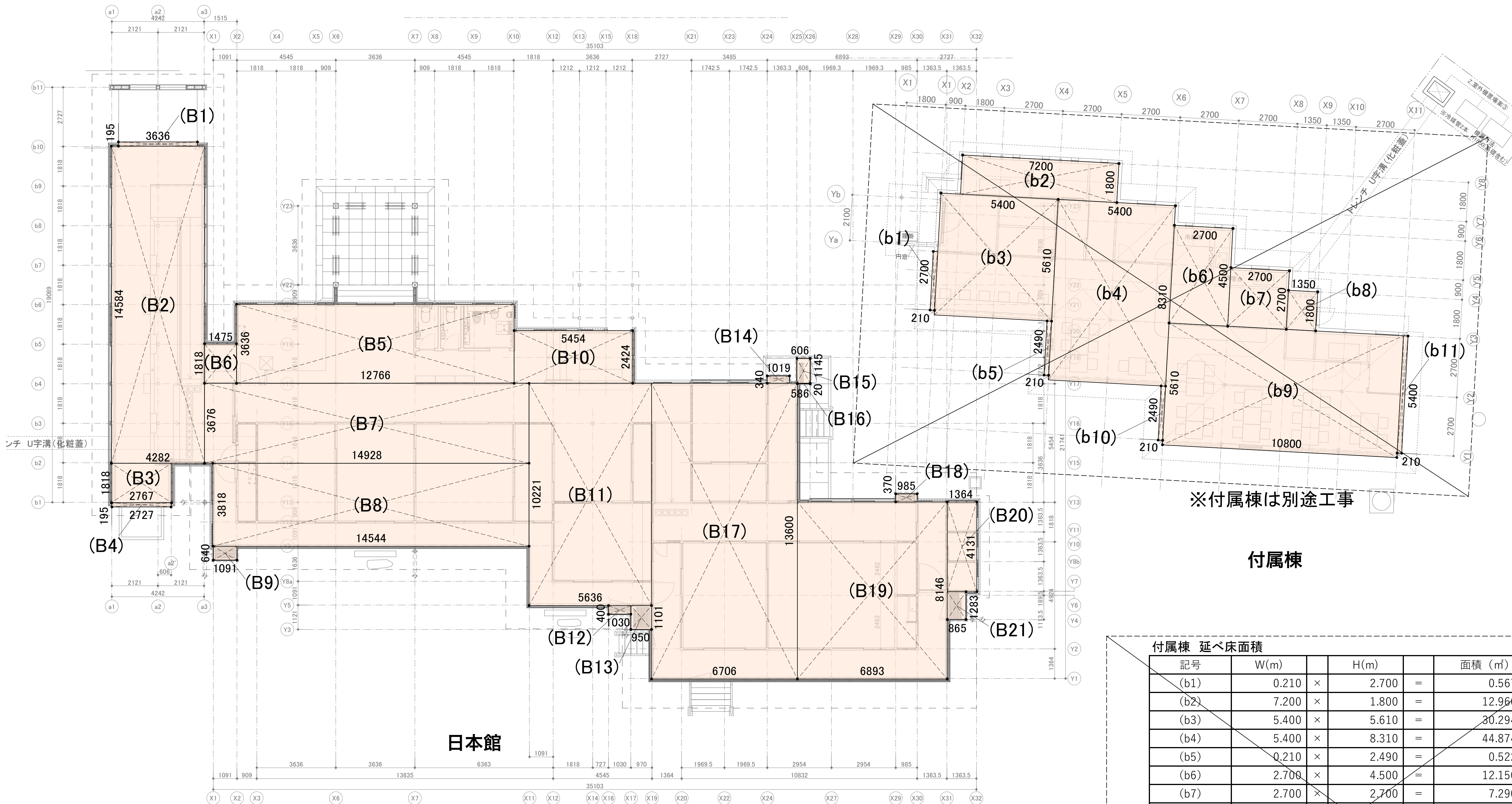
付属棟 建築面積(㎡) = 177.112 ... (a)

日本館+付属棟 建築面積=(A)+(a) = 687.169 m²

香山建築研究所
KOHYAMA ATELIER

一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所 東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
管理技術者 長谷川祥久(一級建築士第289714号)
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所 東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
意匠主任技術者 松本洋平(一級建築士第367970号)

令和7年度新宿御苑日本館御殿工事 (I)
求積図(1) 建築面積
環境省新宿御苑管理事務所
A1 : S=1/100
A3 : S=1/200
A-14
14
164



日本館 延べ床面積

記号	W(m)		H(m)		面積 (㎡)	記号	W(m)		H(m)		面積 (㎡)
(B1)	3.636	×	0.195	=	0.709020	(B13)	0.950	×	1.101	=	1.045950
(B2)	4.282	×	14.584	=	62.448688	(B14)	1.019	×	0.340	=	0.346460
(B3)	2.767	×	1.818	=	5.030406	(B15)	0.606	×	1.145	=	0.693870
(B4)	2.727	×	0.195	=	0.531765	(B16)	0.586	×	0.020	=	0.011720
(B5)	12.766	×	3.636	=	46.417176	(B17)	6.706	×	13.600	=	91.201600
(B6)	1.475	×	1.818	=	2.681550	(B18)	0.985	×	0.370	=	0.364450
(B7)	14.928	×	3.676	=	54.875328	(B19)	6.893	×	8.146	=	56.150378
(B8)	14.544	×	3.818	=	55.528992	(B20)	1.364	×	4.131	=	5.634684
(B9)	1.091	×	0.640	=	0.698240	(B21)	0.865	×	1.283	=	1.109795
(B10)	5.454	×	2.424	=	13.220496	建築面積 (㎡)					456.718124
(B11)	5.636	×	10.221	=	57.605556						
(B12)	1.030	×	0.400	=	0.412000						

日本館 延べ床面積(㎡) = 456.718 ... (B)

付属棟

付属棟 延べ床面積

記号	W(m)		H(m)		面積 (㎡)
(b1)	0.210	×	2.700	=	0.567000
(b2)	7.200	×	1.800	=	12.960000
(b3)	5.400	×	5.610	=	30.294000
(b4)	5.400	×	8.310	=	44.874000
(b5)	0.210	×	2.490	=	0.522900
(b6)	2.700	×	4.500	=	12.150000
(b7)	2.700	×	2.700	=	7.290000
(b8)	1.350	×	1.800	=	2.430000
(b9)	10.800	×	5.610	=	60.588000
(b10)	0.210	×	2.490	=	0.522900
(b11)	0.210	×	5.400	=	1.134000
建築面積 (㎡)					173.332800

付属棟 延べ床面積(㎡) = 173.332 ... (b)

日本館+付属棟 延べ床面積=(B)+(b) = 630.050 m²

香山建築研究所
KOHYAMA ATELIER

一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所 東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
管理技術者 長谷川祥久(一級建築士第289714号)
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所 東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
意匠主任技術者 松本洋平(一級建築士第367970号)

令和7年度新宿御苑日本館御殿工事 (I)

求積図(2) 延べ床面積 A1 : S=1/100 A3 : S=1/200

環境省新宿御苑管理事務所

A-15

15

164

[illegible]